

平成12年度(2000年度)

1. 財団設立10周年記念シンポジウム

開催日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成12年 10月17日 (火) 参加者 254名	<p>－ テーマ －</p> <p>『21世紀のライフサイエンスのフロンティアを展望して』</p> <p>－ 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・21世紀のオーダーメイド診療</li> <li>・遺伝子治療</li> <li>・癌の分子標的治療</li> <li>・癌の免疫治療</li> <li>・骨髄幹細胞移植による細胞補充療法</li> <li>・再生医学を考える</li> <li>・心ある科学の時代に向けて</li> </ul>	<p>－ コーディネータ －</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科 教授 濱岡 利之</p> <p>－ 講師 －</p> <p>東京大学医科学研究所 教授 中村 祐輔 大阪大学大学院医学系研究科 教授 金田 安史</p> <p>東京大学分子細胞生物学研究所 教授 鶴尾 隆 濱岡 利之</p> <p>京都大学大学院医学研究科 教授 中畑 龍俊</p> <p>京都大学大学院医学研究科 教授 西川 伸一</p> <p>千里ライフサイエンス振興財団 理事長 岡田 善雄</p>

2. セミナー

開催日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成12年 7月12日 (水) 参加者 160名	<p>『血管新生とその制御』</p> <p>－ 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・血管系と造血系の発生</li> <li>・VEGFとその受容体の血管新生・透過性亢進における役割</li> <li>・コンドロモジュリン-Iと血管新生の制御</li> <li>・糖尿病網膜症と血管新生</li> <li>・血管新生とマトリックスメタロプロテアーゼ</li> <li>・血管新生阻害剤の開発</li> </ul>	<p>東京大学医科学研究所 教授 澁谷 正史</p> <p>－ 講師 －</p> <p>京都大学大学院医学研究科 助手 小川峰太郎 澁谷 正史</p> <p>京都大学再生医科学研究所 教授 関 祐司</p> <p>九州大学大学院医学系研究科 助教授 石橋 達朗</p> <p>塩野義製薬(株) 診断薬部 部長 杉田 憲治</p> <p>東亜合成(株) つくば研究所 所長 鈴木日出夫</p>
7月21日 (金) 参加者 74名	<p>『発生・細胞・生体工学の新展開』</p> <p>－ 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞分化のスイッチSOX</li> <li>・頭部形成の分子機構</li> <li>・幹細胞生物学のなかの造血幹細胞</li> <li>・色素性乾皮症バリエーション群遺伝子の分離と解析</li> <li>・核-細胞質間情報伝達分子輸送機構</li> <li>・遺伝子トラップミュータジェネシス</li> </ul>	<p>大阪大学細胞生体工学センター 教授 近藤 壽人</p> <p>熊本大学発生医学研究センター 教授 山村 研一</p> <p>－ 講師 －</p> <p>近藤 壽人</p> <p>熊本大学発生医学研究センター 教授 相澤 慎一</p> <p>熊本大学発生医学研究センター 教授 須田 年生</p> <p>大阪大学細胞生体工学センター 教授 花岡 文雄</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科 教授 米田 悦啓</p> <p>熊本大学発生医学研究センター 教授 山村 研一</p>

12月12日 (火) 参加者 69名	ブレインサイエンスシリーズ 第13回 『神経相互接着ダイナミクスとその異常』 — 演題 — ・シナプス活動性と接着構造  ・神経/グリア細胞での神経接着分子を介したクロストーク ・神経分化と再生における細胞接着因子ギセリンの働き ・RAGEを介した癌転移のメカニズム ・ダウン症精神遅滞候補遺伝子DSCAMの解析  ・Po蛋白と遺伝子異常	大阪大学大学院医学系研究科 機能形態学講座 教授 遠山 正彌 — 講師 — 大阪大学大学院医学系研究科 情報薬理学 教授 田中 秀和 (財)東京都医学研究機構東京都臨床医学 総合研究所 伊藤 康一 大阪大学大学院医学系研究科 情報薬理学 助教授 平 英一 国立大阪南病院 内科 田口 明彦 理化学研究所脳科学総合研究センター 神経遺伝研究チーム チームリーダー 山川 和弘 山形大学医学部小児科 教授 早坂 清
平成13年 3月2日 (金) 参加者 269名	『ヒト遺伝子多型とファーマコジェノミクス』 — 演題 — ・SNPと体系的遺伝子発現プロファイルに基づく臨床ゲノム薬理研究 ・ゲノム多型を用いる疾患関連遺伝子同定へのアプローチ ・日本人ゲノム多型 (SNP) の収集とその特徴 ・国立がんセンターにおけるミレニアムゲノムプロジェクト ・高血圧関連遺伝子とSNP ・ヒトゲノム計画の新しい展開	東京大学医科学研究所 教授 榎 佳之 国立循環器病センター研究所部長 森崎 隆幸 — 講師 — 国立小児病院小児医療研究センター 部長 辻本 豪三 徳島大学ゲノム機能研究センター センター長・教授 板倉 光夫 森崎 隆幸 国立がんセンター 部長 大木 操 愛媛大学医学部 教授 三木 哲郎 榎 佳之

### 3. 技術講習会

開催日	テーマ・演題	講師・協賛企業
第23回 平成12年 6月29日 (木) 参加者 32名	『プロテオミクス解析：タンパク質の同定と構造解析』 — 演題 — — 二次元電気泳動法を中心に質量分析まで — “ねらい” 発現たんぱく質の同定、構造解析を考えている分子生物学分野の研究者を対象に、プロテオミクス解析の概要紹介ならびに二次元電気泳動を中心とした実験テクニックの解説と実習を行う 技術解説 1. プロテオミクス解析の概要 2. 二次元電気泳動について 3. 画像解析とデータ処理法 4. 構造解析への応用 実 習 1. 二次元電気泳動法 2. サンプル調整	アマシャム ファルマシア バイオテック(株) — 講師 — アマシャム ファルマシア バイオテック(株) 宮崎 昭、番澤 貴子
第24回 6月30日 (金) 参加者 31名  9月29日 追加開催 参加者 19名	『マイクロアレイ技術の最新動向』 — 演題 — “ねらい” これからマイクロアレイ技術を利用したいと考えている研究者を対象にアマシャム ファルマシアバイオテック社製マイクロアレイ関連製品とAffymetrix社製GeneChipシステムの技術紹介の解説とデータ解析のデモンストレーション 技術解説 1. マイクロアレイシステムの概要 2. アレイの製造技術 3. 遺伝子発現解析のためのサンプル調整法 4. データの再現性・感度・信頼度	アマシャム ファルマシア バイオテック(株) — 講師 — アマシャム ファルマシア バイオテック(株) 加藤 哲雄、梶江 慎一

	5. データ解析方法 6. Bioinformatics 7. GeneChipのアプリケーション紹介 ーシーケンス解析および多形解析ー 実習 1. ワークステーションの操作	
第25回 平成13年 2月15日 (木) 参加者 32名	『フローサイトメトリーによる細胞内サイトカイン測定』 ー 演題 ー “ねらい” 細胞内サイトカイン測定の原理と免疫応答における細胞機能解析への応用を紹介する。細胞解析に必須の4カラー解析におけるサンプル調整、機器調整、および解析ポイントを解説する 1. 細胞内サイトカインの測定原理 2. 機能解析への応用について 3. サンプル作成のポイント 実習 さまざまな4カラー染色サンプルによる機器調整法、及び解析	日本ベクトンディキンソン(株) 藤沢薬品工業(株) ー 講師 ー 日本ベクトンディキンソン(株) 船渡 裕美

#### 4. 新適塾

##### (1) 千里神経懇話会

開催日	テーマ・演題	オーガナイザー・講師
第40回 平成12年 5月12日 参加者 61名	『神経可塑性の新展開』 ー 演題 ー ・シナプス可塑性の分子機構 ・神経伝達物質放出におけるDco2の役割 ーノックアウトマウスの解析を中心にー ・海馬長期増強初期のニューロプシンによる修飾作用	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科細胞構造学講座 塩坂 貞夫、松本 和政 ー 講師 ー 神戸大学医学部 生理学第一講座 真鍋 俊也 塩野義製薬株式会社 創薬研究所 坂口 岳 三菱化学生命研究所特別研究員 神戸大学医学部生理学第一講座 駒井 章治
第41回 7月10日 参加者 57名	『脳虚血と細胞応答』 ー 演題 ー ・VGEFの神経保護機構について ・Aktの神経細胞保護機構について ・脳虚血におけるORP150の役割 ・活性酸素による脳・神経細胞の障害とその防御機構 ーDNAの損傷と修復の関わりー	大阪大学大学院医学系研究科 機能形態学講座 玉谷実智夫 ー 講師 ー 大阪大学大学院医学系研究科 機能形態学講座 松崎 秀夫 大阪大学大学院医学系研究科 機能形態学講座 山口 淳 玉谷実智夫 九州大学生体防御医学研究所生化学部門 (科学技術振興事業団CREST) 中別府雄作
第42回 9月21日 参加者 42名	『孤束核：new insights in the old structure』 ー 演題 ー ・序論：孤束核内神経ネットワークの基本構成 ・孤束核における味覚と内臓感覚の機能局在 ・延髄孤束核における遺伝子導入法による一酸化窒素の血圧調整における役割 ・nNOSの遺伝子を延髄孤束核で制御した時の循環変化 ・孤束核シナプス伝達とプリン受容体	和歌山県立医科大学解剖学第二講座 河合 良訓、仙波恵美子 ー 講師 ー 和歌山県立医科大学 解剖学第二講座 河合 良訓 大阪大学大学院人間科学研究科 行動生理学分野 山本 隆 九州大学大学院医学系研究科 循環器内科 廣岡 良隆 和歌山県立医科大学 生理学第二講座 前田 正信 産業医科大学医学部生化学講座 平野 英保 産業医科大学医学部

		東京慈恵会医科大学 薬理第二講座 加藤 総夫 重富 英
第43回 11月21日 参加者 40名	『神経細胞のコンタクト制御機構』  — 演題 — ・生体における細胞接着の意義 ・接着班蛋白CasとPeroxyinitriteによる細胞死 ・細胞接着因子ギゼリンの神経系における働きと細胞機能制御 ・軸索誘導因子セマフォリンの作用機構	大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔病態制御学講座 上崎 善規 大阪大学医学部保健学科 基礎生体情報学講座 稲垣 忍 — 講師 — 大阪大学医学部保健学科 病態生体情報分子病理学 松浦 成昭 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔病態 病態制御学講座 佐伯万騎男 大阪大学大学院医学系研究科 情報薬理学講座 平 英一 稲垣 忍
第44回 平成13年 1月26日 参加者 54名	『神経細胞死シグナリング』  — 演題 — ・神経細胞死の新しい分子機構 - 空胞形成を伴う細胞死 - ・孤発性アルツハイマー病と異常スプライシング — プレセニリン2の異常スプライシングを引き起こす因子の同定 — ・小胞体ストレスセンサーIRE1の生理機能  ・アルツハイマー病と小胞体ストレス	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 細胞構造学講座 今泉 和則 — 講師 — 大阪バイオサイエンス研究所 第4研究部 垣塚 彰 大阪大学大学院医学系研究科 機能形態学講座 真部 孝幸  奈良先端科学技術大学院大学 遺伝子教育研究センター 動物細胞工学部門 河野 憲二 大阪大学大学院医学系研究科 神経医学講座 工藤 喬
第45回 2月26日 参加者 62名	『ペインリサーチにおける新知見 Part3』  — 演題 — ・抹消神経損傷後のtPA、uPAの発現 ・抹消への異なる刺激は、それぞれ特定の一次感覚ニューロンを興奮させるか？ ・痛み刺激受容体の分子機構	兵庫医科大学解剖学第二講座 野口 光一 — 講師 — 兵庫医科大学解剖学第二講座 山中 博樹 兵庫医科大学解剖学第二講座 戴 毅 三重大学医学部 第一生理学講座 富永 真琴

(2) 21世紀の薬

開催日	テーマ・演題	世話人・講師
第35回 平成12年 5月23日 参加者63名	新しい治療戦略(12) 『リンパ球の体内動態制御と創薬科学』  — 演題 — ・リンパ球の体内動態とケモカイン ・糖鎖を介した細胞接着 — そのドグマとエングマー	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 近畿大学医学部 義江 修 大阪大学大学院医学系研究科 宮坂 昌之
第36回 6月27日 参加者17名	『薬と人間との付き合い方について考える』  — 演題 — ・薬物乱用の話 — 麻薬から合法ドラッグまで—	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 — 講師 — 厚生省近畿地区 麻薬取締官事務所鑑定官 木本 茂
第37回 7月17日 参加者48名	『チロジンリン酸化 — 細胞機能から創薬へ—』  — 演題 — ・受容体型チロジンファスファターゼLARの脱リン酸化機構と抗LAR抗体の甲状腺癌診断への応用 ・細胞骨格系によるチロジンリン酸化の制御 — アストログリアの増殖機構—	大阪大学大学院薬学研究科 教授 馬場 明道 — 講師 — 大阪大学大学院薬学研究科 辻川 和丈  大阪大学大学院薬学研究科 小山 豊

第38回 9月28日 参加者40名	新しい治療戦略(13) 『次世代細胞療法を目指した創薬科学』 ・細胞性製剤の開発と疾病治療への応用 ・樹状細胞を用いた癌免疫療法に関する基礎的検討 ・GFPレポーターを用いたドーパミンニューロンの可視化・分離とパーキンソン病モデルへの移植	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範 — 講師 — 大阪大学大学院薬学研究科 鈴木 亮 京都薬科大学 岡田 直貴 大阪大学大学院薬学研究科 澤本 和延 岡野 栄之
第39回 12月18日 参加者22名	『薬剤の微生物管理』 — テーマ・演題 — ・医薬品製造における微生物管理	大阪大学大学院薬学研究科 教授 那須 正夫 — 講師 — 大日本製薬株式会社 品質管理部 川井 眞子
第40回 平成13年 2月22日 参加者61名	『変性LDLと動脈硬化』 — 演題 — ・創薬の標的分子としての変性LDL受容体LOX-1の可能性 ・マイクロファージスカベンジャー受容体の役割	大阪大学大学院薬学研究科 教授 馬場 明道 — 講師 — 国立循環器病センター バイオサイエンス室 沢村 達也 大阪大学大学院薬学研究科 土井 健史

#### 5. 千里ライサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」

開催日	テーマ・演題	コーディネーター・講師
第28回 平成12年 7月29日 参加者 216名	『腎・尿路疾患の予防と治療』 — 演題 — ・透析医療と腎臓移植 ・頻尿と尿失禁 ・前立腺肥大症と癌	国立循環器病センター 名誉総長 尾前 照雄 大阪市立大学医学部泌尿器科学 教授 岸本 武利 — 講師 — 大阪市立大学医学部泌尿器科学 教授 岸本 武利 大阪医科大学 泌尿器科学 教授 勝岡 洋二 大阪大学医学部 泌尿器科学 教授 奥山 明彦
第29回 9月30日 参加者 309名	『老いの魅力』 (記念講演、参加料無料) — 演題 — ・老いの輝きとユーモア ・無職宣言 ・セカンドライフをいきいきと健康に	国立循環器病センター 名誉総長 尾前 照雄 — 講師 — 上智大学文学部 教授 アルフォンソ・デーケン 花園大学 社会福祉学部 教授 大國美智子 サラリーマンOB運営委員会 運営委員長 山岸清太郎 大阪府健康生きがいづくりアドバイザー 協議会 副会長 松原緋紗子
第30回 平成13年 3月3日 参加者 244名	『糖尿病と高脂血症』 — 演題 — ・糖尿病の予防と管理 ・コレステロールと中性脂肪 ・料理を通して暮らしをみる (健康な食事を自分の手で)	国立循環器病センター 名誉総長 尾前 照雄 — 講師 — 市立豊中病院 副院長 松山 辰男 国立循環器病センター 動脈硬化代謝内科 医長 都島 基夫 料理研究家 白井 操

#### 6. 千里ネイチャー・カレッジ

回数	開催日	テーマ・内容	参加者	
			生徒	関係者

第1回	7月16日 (日)	『サルの観察(Ⅰ)』 箕面駅⇄滝安寺⇄箕面滝⇄百年橋⇄天上ヶ谷 (サルの餌場) (往復7.5km)	42名	24名
第2回	8月6日 (日)	『昆虫・植物の観察』 箕面駅→みのお山荘→オケ原池→こもればの森→ 地獄谷→箕面駅(4.5km)	36名	25名
第3回	10月14日 (日)	『サルの観察(Ⅱ)& シンクスタディーと修了式』 箕面駅⇄滝安寺⇄箕面滝⇄百年橋⇄天上ヶ谷 (サルの餌場) (往復7.5km) (チャーターバスにて千里ライフサイエンスセンターへ) シンクスタディーと修了式	39名	27名

## 7. 千里ライフサイエンスフォーラム

開催月日	テーマ	講師
93 平成12年 4月25日 参加者28名	『昔話と人生』	国立民俗学博物館 教授 江口 一久
94回 5月26日 参加者18名	『薬物依存、特に覚醒剤中毒について』	大阪大学大学院医学系研究科 教授 的場 梁次
95回 6月23日 参加者26名	『いろいろな色の花を創る』 青いバラへの挑戦	サントリー(株) 花事業部 部長 基礎研究所首席研究員 久住 高章
96回 7月18日 参加者21名	『ロボカップの大いなる挑戦』 ーヒューマノイド・チャレンジャー	大阪大学大学院工学研究科知能・ 機能創成工学専攻 教授 浅田 稔
97回 8月25日 参加者34名	『ウイルス病を予防する』	大阪大学名誉 教授 上田 重晴
98回 9月20日 参加者48名	『ITはいかなる意味で、どのような革命 たりうるか』	スタンフォード日本センター 理事長 スタンフォード大学 教授 今井 賢一
99回 10月26日 参加者32名	『自己をみつめる』 ー内観の方法と実際ー	大阪大学人間科学部 教授 三木 善彦
100回 11月17日 参加者42名	『再生医学への夢』 ー臓器移植を越えられるかー (100回記念)	千里ライフサイエンス振興財団 理事長 岡田 善雄
101回 12月14日 参加者36名	『科学はおもしろい?』	J T生命誌研究館 館長 岡田 節人
102回 平成13年 1月19日 参加者32名	『次世代の夢の医薬品』 ーDDSと遺伝子治療ー	大阪大学大学院薬学研究科 教授 真弓 忠範
103回 2月16日 参加者33名	『中国の酒創りが教えるもの』	(元)宝酒造株式会社酒類研究所 所長 高山 卓美
104回 3月14日 参加者35名	『遊牧の世界から』	国立民族学博物館 地域研究企画交流センター長 松原 正毅